

大学入学以来50年以上の友人がいる。最初の出会いは入学直後の講義中。あまり面白くないので私は後方の席で新聞を広げていた。近くにいた彼が「ちよつと新聞見せて」。講義後、私は部活に向かったが彼も同じ方向へ。同期の部活仲間ということが分かり、以来4年間ほぼ一緒に行動する仲となった。

私は大学近くに下宿。

彼は1時間ほどの自宅通学生。遅くなれば部活仲間が私の下宿に泊まり込む。私の下宿は次第にたまり場みたいになり、彼は多いときは週5泊ということもあった。

時を経て古希も過ぎ加齢とともに体の方も不具合が増えてくる。彼は昨年

健康寿命



草野 義輔

未大きな手術をした。首都圏在住と遠方なので見舞いにも行けず、励ます以外何もできない。メールが届くが行間には不安がにじみ、家族を頼る心情がくみ取れた。

手術無事終了。術後半年くらいは通院と服薬治療の継続が必要とのこと。コロナが流行し、人一倍気を付けねばならない。先般半年かけた術後の治療完了、との知らせが入った。あっさりした表現だが応援してくれた仲間たちへの感謝がつづられていた。

人生100年時代というが大事なものは健康寿命。われわれ団塊の世代は、まさに健康寿命の瀬戸際に立っている。大病を乗り越えた友人がいることを心強く思うと同時に、少しでも健康寿命を延ばしていきたいと願っている。